

図書案内

2020年

8月号

担当 3-2 山 3-6 柳沢

本から学ぶ恋の告白

さあみなさん、夏ですよ！ 夏と言えば、青い海、白い雲、真っ赤な西瓜、そして——夏の恋。恋を叶えるには、“気持ちの告白”が必須です。でも、「どうせ振られるから」とあきらめたり、「何て言えばいいか分からぬ」と悩んだりする人もいれば、「はっきり思いを伝えたい！」と思う人も多いでしょう。そんなときこそ図書館へ！ 作品中のいろいろな告白を参考にして、恋の悩みを解決しましょう。本は図書館で貸出しています。

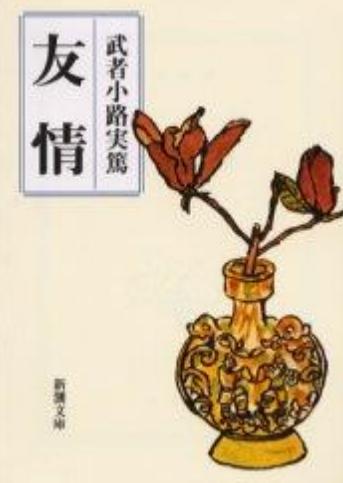


『友情』 武者小路実篤

脚本家である主人公・野島は、友人の妹である杉子に熱烈な恋をしている。その恋の助けをもらおうと、厚い友情で結ばれた大宮に相談するが、杉子はかねてから大宮のことが好きで……。

本書の初版は1920年、ちょうど今から100年前に出版されました。古い本だからと敬遠しないで、一度読んでみてください。夏の甘酸っぱく、せつない青春の一ページにあなたもキュンキュンするはず！（山）

わが愛する天使よ。巴里へ武子と一緒に来い。お前の赤坊からの写真を全部おくれ。俺は全世界を失ってもお前を失いたくない。だがお前と一緒に全世界を得れば、万歳、万歳だ。

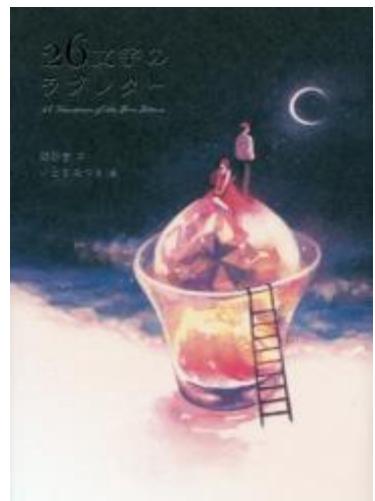


『天使は奇跡を希う』 七月隆文

転校生の優花は、天使だった。「天国に帰る」というミッションを達成させるため、良史は幼なじみとともにミッションを手伝うことにする。しかし優花は、大きな嘘をついていた。

良史の視点で語られた物語は、中盤で優花の視点に切り替わります。それが物語の転換点で、毛色が大きく変わります。彼女の本当の目的、そして思いを最後まで見届けるために読み切ってもらいたい本です。（柳沢）

これまで見たことのない、なんとも言えないかなしいまなざしをして。
「うん」
はっきりと、言う。
「このミッションは絶対に成功させなきゃいけないの」



『26文字のラブレター』

みなさん「都々逸」を知っていますか。「都々逸」とは、「ザンギリ頭を叩いてみれば文明開化の音がする」という一節のように、基本的に7・7・7・5のリズムで詠む唄のことです。都々逸には、恋の唄も数多く存在します。

この26文字の言葉で、意中の相手にそっと告白するというのも風流でかっこいいのではないでしょうか。（山）

惚れたこがれた甲斐ない今宵
逢えばくだらぬことばかり

読み人知らず



『お任せ！ 数学屋さん』 向井湘吾

転校生の神之内宙 じんのうちそう は、クラスメイトの天野遙と「数学屋」を始める。皆の悩みを数学で次々に解決していくなか、ある日匿名での恋愛相談が舞い込んで……。

数学しかできない神之内と、数学ができない天野。数学では解けそうにない「人の感情」という超難問を、ふたりは不器用な交流を通して挑んでいきます。その先の答えは……？ 文系の人も楽しめる内容です。（柳沢）

ありがとう。君たちがいなかったら、この問題は解けなかったよ。

恋愛学について

恋愛は、科学で分析できる。そう言うと、皆さんの中には耳を疑う人もいるかもしれませんね。では、恋愛学という学問をご存じですか？ これは実際に早稲田大学で研究されている、立派な専門分野のひとつです。この分野では、人間の恋愛や結婚について、進化論、生物学、経済学、社会学、政治学などの観点から学び、科学的に分析しています。例えば「恋愛感情とは何か？」という問い合わせ、「恋愛市場の分析」、さらには「なぜ日本にはいい男がないのか？」というものまで。実際に研究されている早稲田大学の森川友義教授によると、恋愛学を学ぶことで「最高の恋人の見つけ方」が分かるようになるそうです。近年特に活発になっているという恋愛学、もし興味があれば調べてみてはどうでしょうか。

【記事出典】 <http://tmorikawa1221.net/Articlescontinued5.html>

